

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名 チャレンジ岡崎  
代表者名 小田 高之

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

## 政務活動報告書

令和5年 3月27日提出

活動年月日	令和4年 7月19日（火）～令和4年 7月20日（水）	
氏名	杉山 智騎、近藤 敏浩、青山 晃子	
用務先 及び 内容	1 7月19日	用務先 香川県 高松市
		内容 「スマートシティたかまつ」の取り組みについて
	2 7月20日	用務先 広島県 福山市
		内容 ふくやま子育て支援センター 「キッズコム」及び「えほんの国」について
	3 月 日	用務先
		内容
	4 月 日	用務先
		内容
備考		



## 令和4年度 政務活動旅行報告書

チャレンジ岡崎 杉山 智騎  
近藤 敏浩  
青山 晃子

### 1. 視察日程

令和4年7月19日（火）～7月20日（水）

### 2. 視察先及び調査項目

(1) 香川県 高松市

「スマートシティたかまつ」の取り組みについて

(2) 広島県 福山市

ふくやま子育て応援センター「キッズコム」及び「えほんの国」について

### 3. 調査内容

■視察先：香川県 高松市 7月19日（火）14:00～15:30

調査項目：「スマートシティたかまつ」の取り組みについて

#### 【出席者】

高松市 総務局 デジタル推進部

デジタル戦略課 課長補佐 細川 和久氏

他 議会事務局より一名



#### 「スマートシティたかまつ」の取り組みについて

- ◆ 「スマートシティたかまつ」の概要
- ◆ プロジェクト開始の経緯、背景
- ◆ 産学民官の連携
- ◆ ICTとIoTを活用したまちづくり
- ◆ 各分野における取り組み
- ◆ 現在の課題、今後の展開等



#### 【説明】

○高松市について

1890年2月 市制施行（当時 人口：33,863人 面積：2.85K㎡）

1999年4月 中核市に移行

2005年9月 塩江町と合併

2006年1月 牟礼町、庵治町、香川町、香南町、国分寺町と合併。  
 総人口 413,337人 うち外国人人口 4,675人 面積 375.65Km<sup>2</sup>  
 高齢化率 28.4% 世帯数 188,397世帯

### 瀬戸内海の多島美

海に面した高松市は、穏やかな瀬戸内海に美しい島々を臨める最高の景色で暮らせます！

島暮らしができる

高松港から船で20～40分。若い移住者も多く、島時間でゆったりとした生活も可能です！

賑わいのある中心部商店街

住民主導の再開発が成功した中心部商店街ではショッピングやイベント等で賑わっています！

緑豊かなまち

本市の東部・西部・南部エリアには、自然が豊かな地域が多くあります！

### ◆ 「スマートシティたかまつ」の概要

#### ・スマートシティたかまつ推進プラン（2022～2024）

市民全員がデジタル技術を活用でき、社会全体のDXを進めることで、誰もが、どこからでも利便性を享受できる「スマートシティたかまつ」の実現

- ✓ 持続可能で魅力的なまちづくり
- ✓ 多様な主体の出会いと協働を促進する仕組みづくり
- ✓ 誰もがデジタル社会の恩恵を享受できる環境整備
- ✓ 市民ニーズに応じた行政サービスの効率的な提供

4つの柱

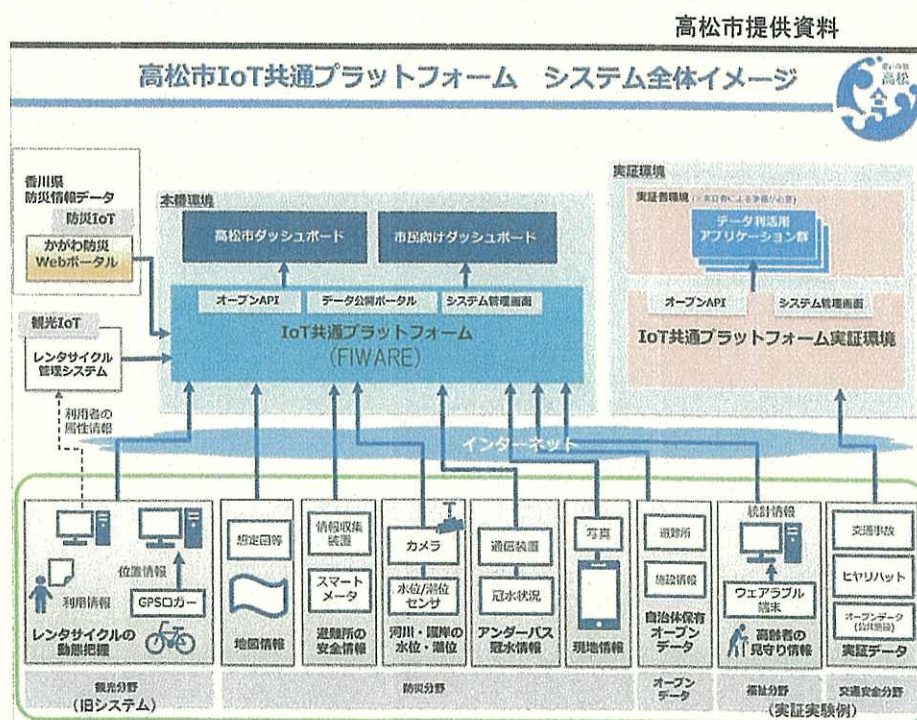
### ◆ プロジェクト開始の経緯、背景

#### 防災分野開始の経緯・背景

- ・日本の中では災害の発生が比較的少なく、市職員が災害対応の経験を積んでいない。
- ・都市機能と海との近さが仇となり広範囲に被害が発生する危険性がある。

#### 観光分野開始の経緯・背景

- ・中心市街地が平坦であり自転車を利用しやすい条件が揃っている。
- ・市が運営するレンタサイクル事業を活用し大きなコストをかけずに観光客のデータを収集できる。



◆ ICT と IoT を活用したまちづくり

総務省「データ利活用型スマートシティ推進事業」を推進するにあたり、行政だけでなく市民や企業がオープンにデータを活用できる共通プラットフォームの構築に、国内で初めて FIWARE を活用した。特に、優先度が高い防災分野・観光分野について、データを IoT 技術によって収集、クラウド上で蓄積し、可視化、分析を行う仕組みを構築した。(高松市 IoT 共通プラットフォーム システム全体イメージ図 前掲高松市提供資料参照)

◆ 各分野における取り組み

**防災分野での取り組み** 河川のはん濫・津波・高潮、南海トラフ大地震など想定される災害における避難所の状況把握の迅速化や市民への迅速かつ的確な情報提供が課題である。そこで、センサーから取得した水位等のリアルタイムデータと、地図情報等を組み合わせた データ利活用を行うこととした。

これまでリアルタイムに河川の水位などが把握できるセンサーがなく、職員による現地確認が中心であったが、システムの導入により、市役所から現地の状況変化をモニタリングし、早期の災害対策が可能な環境を整えることができた。



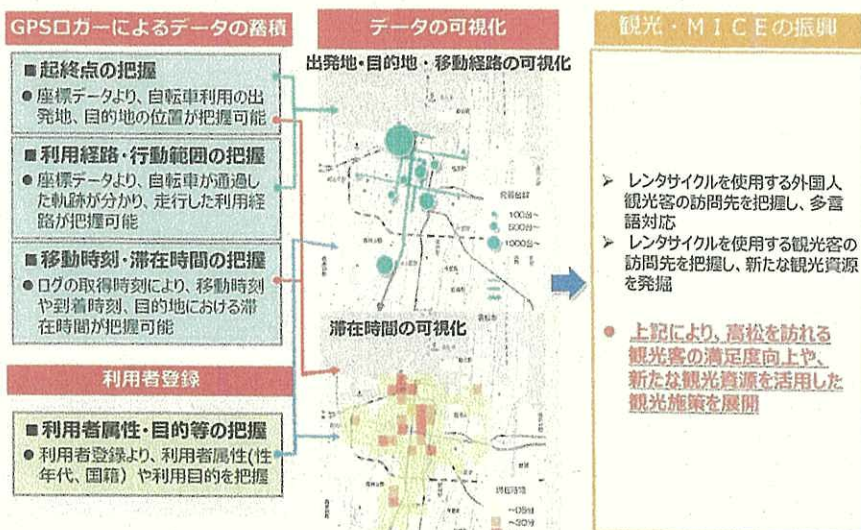
(17基の水位センサーを設置。平常時10分ごと、水位が上がると1分ごとに情報更新。)

市民への迅速かつ的確な情報提供、職員による効率的な現地調査などにおける導入効果があった。

**観光分野での取り組み** ナイト観光・新たな観光資源の創出・発掘、外国人受入環境の充実が課題である。

そこで、1,500台あるレンタサイクルのうち50台にGPSロガー(GPSにより移動経路を記録する装置)を搭載した。貸し出したGPSロガー搭載レンタサイクルがポートに返却されたタイミングで、GPSロガー内のGPSログデータをWi-Fiを使って自動収集し、利用者の属性情報とマッチングすることで、レンタサイクルの利用動向から観光客の動態を可視化し分析する仕組みを実装した。

(属性情報は事前に利用者の承諾を得たうえで国籍、性別、年代、利用目的等収集した。)



その動態を把握することで、新たな観光資源の発掘や観光客向けのサービス向上に役立てる環境を整えることができた。(多言語案内・サインの設置、多言語研修の実施など)

#### ◆ 産学民官の連携

産学民官連携の仕組みとして、2017年10月に、スマートシティたかまつ推進協議会(会長:高松市長)を設立した。産学民官の多様な主体との連携を通じてIoT共通プラットフォームを活用した官民データの収集・分析による地域課題の解決を目指す。(会員数:2022年4月現在135者)。

協議会内に分野ごとに産学民官が連携したワーキンググループ(WG)を組成し、先ず課題の整理を行い、実証事業を重ねつつ、社会実装を目指す取組を進めている。

また、協議会として、市民参加型のスマートシティを目指し市民向けのシンポジウムや人材育成講座の開催など、普及啓発活動を実施している。

#### ◆ 現在の課題、今後の展開等

前述のスマートシティたかまつ推進協議会のなかで組成したワーキンググループでの取組について以下の表で説明する。



名称	活動期間	検討内容
地域ポイントを活用した健康経営WG	2018年5月～	市民の健康増進とそれに伴う将来的な医療費削減のため、本市独自の健康アプリの開発に向けた検討
人材育成環境向上WG	2019年5月～	ICT・データ利活用人材の育成環境の向上策を検討
デジタルデバイド対策検討WG	2020年8月～ 2022年3月	デジタルデバイドの解消に向け、地域の身近な人からICTについて学べる体制構築について検討
スマート農業WG	【R3年度設置】 2021年8月～	農業分野の効率化のため、効果的なICTの導入について検討
スーパーシティ構想WG	【R3年度設置】 2021年8月～	スーパーシティ構想で掲げた各先端サービスの実現に向けた検討

その他、デジタルガバメント推進特別WG、観光情報利活用WG、防災IoT活用WG、交通データ流通活用WG、交通事故撲滅WG等があり、それぞれの課題に取り組んでいる。

今後の展開については、「スマートシティたかまつ」プロジェクトは、「2022～2024」の計画であり、先ずはこのプロジェクトに取り組みたい。あえて挙げるのであれば、「高松市スーパーシティ構想」で提案する、「フリーアドレスシティたかまつ【FACT (Free Address City Takamatsu)】」である。計画年度を2030年とするFACTは、デジタルをツールに時間や場所の制約から解放され「ひと」と「ひと」とがつながる先端的サービスの提供を目指すものである。人口減少、少子・超高齢社会が深刻化すると、その課題の顕在化が社会の窮屈感を生むが、それを突破する為の提案である。時間や場所の制約から解放され、人間らしく生活するために必要な出会いや交流が、すべての人に等しく存在するまちを想像してほしい。

## 【その他質疑応答（うち主なもの）】

質 問	答
高松市 IoT 共通プラットフォームに関して導入の費用は？維持の費用は？	導入時費用の二分の一の助成が総務省よりあった。導入費用は 9000 万円、維持費用は年間 1300～1500 万
ワーキンググループを組成し課題解決に取り組むことの効果は？	参加者全員が上下無く「平場」でアイデアや手法を出し合えることが出来る。
アイデアソン、ハッカソンなどの手法の利用はどのようなか？	人材育成環境向上 WG において ICT・データ利活用人材の育成環境の向上を目指し、アイデアソン・ハッカソンなどの手法・内容等や、実証事業・社会実装に向けた協議会としての支援の仕組みについて検討した。WG にて改善した手法・内容等でアイデアソン・ハッカソンなどを開催し、企画内容等の高度化、参加者の増加を実現した。
デジタルデバйд対策検討 WG で地域の身近な人から ICT について学べる体制構築したとあるが、その具体的な内容は？	高齢者等、ICT が苦手な人が、身近な地域の人からサポートを受けられる体制を構築することで、地域コミュニティ単位で、地域活動の一環として、デジタルデバйдの解消、地域コミュニティのデジタル化を進める。令和 3 年度には、4 つの地域コミュニティ協議会において取組を実施。（内容については以下の地域コミュニティの主な活動内容表に記す）講師育成講座を受けたコミュニティセンター職員が講師として、地域住民向けに「LINE 教室」を実施する際には、職員には講師としての報酬を支払う。

## 地域コミュニティの主な活動内容

地域コミュニティ	主な活動内容
屋島地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民向けのスマホ教室を実施</li> <li>・ コミュニティセンター職員向けの講師育成講座を実施</li> <li>・ 職員が講師として、地域住民向けに「LINE 教室」を実施</li> </ul>
多肥地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多肥地区が目指す将来像について意見交換会を実施</li> <li>・ 「Instagram 講座」を実施し、多肥コミュニティセンターの取組を地域に発信</li> <li>・ 香川大学と連携し、e かみしばいの講座を開催</li> </ul>
鬼無地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT スキルやネットリテラシーを学ぶための、スマホ教室を開催</li> <li>・ モバイルスタンプラリーアプリを活用したイベントの検討</li> </ul>
栗林地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS を利用し、コミュニティ活動（イベント、講座等）の開催報告を実施</li> <li>・ 地域コミュニティの情報を集約する HP を構築</li> </ul>

WG メンバー NTTドコモ(株)、香川県中途失聴・難聴者協会、Code for Sanuki、シニアネットかがわ、ビットコミュニケーションズ、フソウ、高松市

## 【所感・岡崎市への提言】

「水位センサーを使った防災分野での取り組み」について 岡崎市は、市内に矢作川に加え伊賀川、鹿乗川などの大中小河川が流れており、東海豪雨と 8 月末豪雨においては甚大な被害を受けています。本市はこれまでも河川改修や下水道の雨水ポンプ場整備など緊急的な水害対策を実施してきており、当時より水害のリスクが低下していることは理解しています。しかしながら、近年日本全国で多発する豪雨災害を見るに付け、刻一刻と変化する現場状況をリアルタイムに把握し対応することの重要性を感じます。

そこで今回、「スマートシティたかまつ」の、「水位センサーを使った防災分野での取り組み」を調査しました。本市でも国道 1 号や名古屋鉄道との交差箇所など用排水路の主要地点に小型 IoT 水位センサーを設置し、リモートで現場水位状況を把握し、管理水位を超過した際にはアラートメールで注意喚起できるシステムを構築していると聞いております。高松市は NEC、本市は京セラコミュニケーションズで、システム会社に違いはありますが IoT 共通プラットフォーム上での防災ダッシュボード表示など参考に出来るところもあると思います。

広域連携について 高松市は、令和 2 年 3 月には瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の綾川町、並びに観音寺市とともに、構築した IoT 共通プラットフォームを共同利用する協定を締結しています。プラットフォーム構築にはイニシャルコストで 9000 万円、ランニングコストで年間 1300~1500 万円かかるとのこと。本市においてプラットフォーム構築の際には、負担金方式で、近隣市町と共同利用を行い、災害時に、広域で、迅速に情報を共有すべきと考えます。高松市は本市と違い県庁所在地ではありますが、例えば矢作川、鹿乗川で接する市町においては共同利用が可能と考えます。

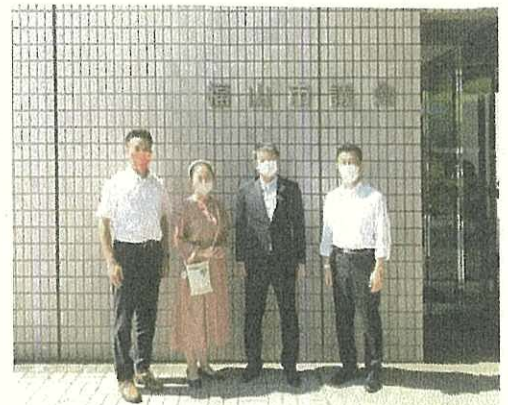
産学民官の連携について 高松市は、高松市長を会長とする「スマートシティたかまつ推進協議会」において、産学民官の多様な主体と連携し地域課題の解決に取り組んでいます。そこで組成するワーキンググループでは一定の成果を上げているようです。別物だと言われるかもしれませんが、「岡崎スマートコミュニティ推進協議会 協議会会員一覧」を見ますと会員に岡崎市長がいません。行っているのかもしれませんが、ワーキンググループが活発に活動し成果を上げているということも、余り聞きません。通行人属性推定、人流導線把握、ウォーキングアプリ、駐車場情報提供など、時々聞く機会がありますが、協議会の活用手法をもっと検討すべきと考えます。

## ■視察先：広島県 福山市 7月20日（木）10：00～11：30

調査項目：ふくやま子育て応援センター「キッズコム」及び「えほんの国」について

## 【出席者】

福山市保健福祉局	ネウボラ推進部		
	ネウボラ推進課	課長	小畑 佳代氏 他一名
福山市議会		副議長	今岡 芳徳氏
福山市議会事務局	議事調査課	次長（調査担当）	芦原 孝氏
	同	課長	佐藤 美穂氏



## ふくやま子育て応援センター「キッズコム」及び「えほんの国」について

- ◆ 「キッズコム」及び「えほんの国」の概要
- ◆ 施設設置の経緯、背景
- ◆ 各施設の特徴、特色
- ◆ 各施設の活用等
- ◆ 市民の声（評価・要望）
- ◆ 現在の課題、今後の展開等



○調査にあたり、福山市と福山ネウボラの説明を受ける。ネウボラとは、北欧フィンランドの子育て支援制度のこと。妊娠、出産、子育てに関する切れ目の無い支援が特徴。フィンランド語でアドバイスの場を意味する。

### ・福山市の概要

瀬戸内海沿岸部の中央に位置する中核市

人口：461,664人(2022年3月末現在)

面積：518.14km<sup>2</sup>

年間出生数3,428人(2021年度) 第3子が多い。

### ・福山ネウボラの概要

医療・保健・福祉等の相談体制を再構築して

- ①妊娠、出産、子育てに関し、切れ目のない支援を行う。
- ②子育てに関する不安や負担感を軽減する。
- ③安心して子育てができる環境を整備。

### ・福山ネウボラの対象者は妊娠期から学童期までの子どもをもつ家庭。

### ・特徴的な取組みは

- ① 子育て部門、衛生部門、教育委員会、福祉部門に分かれていた子ども・子育てに関する業務をネウボラ推進部に集約。2017年より。
- ② 「子ども家庭総合支援拠点」と「子育て世代包括支援センター」を一体的に運営し、妊娠初期から課題のある家庭にアプローチ。虐待の未然防止に努める。
- ③ 「子育て世代包括支援センター（ネウボラ相談窓口「あのね」）を中核市最多の13か所に開設。
- ④ 商業施設にも「あのね」を開設し、土日祝日の母子健康手帳交付や相談を実施。
- ⑤ 母子健康手帳交付時をファーストコンタクトとして重視。担当のネウボラ相談員と面談を行い、「あのね手帳」を活用した「あのねプラン」を策定。（パーソナルプランで関係性を築く）。
- ⑥ 「えほんの国」を商業施設で運営。毎日の読み聞かせやワークショップなど実施。
- ⑦ 不安の高まりやすい妊娠後期に面談を促す取組として、来所相談時に絵本や育児用品など（5,000円相当）をプレゼント。
- ⑧ ハローワークと連携した就労相談にも対応（子育て中に適した就業を紹介）。
- ⑨ 男性の育児参加を官民連携で促進する取組として「パパ活躍ウィーク」実施（料理教室など）。
- ⑩ 子育て家庭の経済的不安に対応するため「FP相談」実施。（子育てプランを説明）。
- ⑪ 「子育て支援アプリ」や「あんしん子育て応援ガイド」による情報発信（広告費で資金を捻出）。





・課題と今後の方向性

- ① これまで、課題を抱える家庭への支援や、妊娠出産子育ての不安や負担感へのケアを中心に組みこんできたところ。今後は子育て家庭全般に市の子育て支援の魅力を伝えていく。
- ② 人材確保（保育士、相談員など）大学生向けに保健士が情報発信。
- ③ 若い世代が望む子育て支援策の更なる充実（経済的支援や遊び場など）。
- ④ 人口減少対策として、ネウボラ推進部を超えた全庁的な取組が必須。

◆ 「キッズコム」及び「えほんの国」の概要

➤ ふくやま子育て応援センターのあゆみ（キッズコム・えほんの国）

年月日	経過	内容
2000年5月 開設	ふくやま子育て応援センター 開設	子育て相談・情報提供・休日保育 ファミリー・サポート・センター事業
2008年7月	ローズコムへ移転	
2014年4月	エフピコRiMへ移転	
2017年6月		福山ネウボラ「あのね相談窓口」開設
2020年9月	すこやかセンターへ移転	8月末でエフピコRiM閉館に伴って
2021年5月	天満屋福山店8階へ 福山子育て応援センター 「キッズコム」移転 「えほんの国」リニューアルオープン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域子育て支援拠点事業所</li> <li>・ネウボラ相談窓口「あのね」</li> <li>・休日保育事業</li> <li>・ファミリー・サポート・センター事業</li> <li>・えほんの国</li> </ul>

(2021年度実績)

➤ キッズコム 概要

1. 地域子育て支援拠点事業

- ✓ 子育て家庭の親子の遊び場の提供
  - ◇ プレイルーム解放（午前10時～午後5時）
  - ◇ 各種子育て講座の開催・あそびの広場・連続講座・夢見るパパとママの会など
- ✓ 子育てに関する情報提供



2. 福山ネウボラ相談窓口「あのねキッズコム」（子育て世代包括支援センター）↑

（10：00～17：00 月曜日休館）

- ✓ 母子健康手帳の交付
- ✓ 産前面談（妊娠後期の面談）

3. 福山市ファミリー・サポートセンター事業

- 子育てを応援して欲しい人（依頼会員）と、子育てを応援したい人（協力会員）が、違いに会員となって子育てを助け合う活動。利用については岡崎市と同じく事前の入会が必要。
- 利用料金：月曜から金曜 7：30～19：00 は600円／1時間。それ以外の時間は700円／1時間。  
月曜から金曜 以外の曜日や祝日は700円／1時間。

### ➤ えほんの国 概要

#### ✓ フリースペース設置

◇ 利用時間（午前 10 時～午後 5 時）。

◇ 蔵書は絵本約 4,000 冊。

◇ 赤ちゃんコーナー設置。

◇ おはなし絵本、のりもの絵本、どうぶつ絵本、ものがたり絵本などこどもの興味に応じてコーナーを設置しゆっくり楽しめるようにしている。

✓ 毎日開催絵本の読み聞かせ

✓ 人形劇、リズムあそび、コンサートなどイベント開催。

✓ 親子で楽しむワークショップ（季節の制作鯉のぼりひな人形、牛乳パックのおもちゃなど）



### ◆ 施設設置の経緯、背景

○施設が設置された経緯、背景を下の表に纏めます。（経緯については「キッズコム」及び「えほんの国」の概要の、ふくやま子育て応援センターのあゆみも参照のこと。）

2016 年度	福山未来創造ビジョン策定。5 つの挑戦の一つの柱として「希望の子育て」を位置づける。
2017 年度	福山ネウボラ創設。「子育て支援課」を「ネウボラ推進課」に変更。 ネウボラ推進担当部長設置。フィンランド視察 努力義務化に伴い市内 12 か所にネウボラ相談窓口「あのね」開設
2019 年度	13 か所目開設。全ての「あのね」で母子健康手帳交付。ファーストコンタクトに。
2020 年度	「児童部」を「ネウボラ推進部」に変更。母子保健を衛生部門からネウボラ推進課に統合。幼稚園を教育委員会から「ネウボラ推進部」に移管。
2021 年度	「こども家庭総合支援拠点」を設置。こども健全育成支援事業を福祉部門から移管。天満屋へ「キッズコム」移転。「えほんの国」リニューアルオープン

### ◆ 各施設の特徴、特色

○キッズコムの特徴、特色の説明として、「(福山ネウボラの) 特徴的な取組みは」の②・③・④・⑤・⑦・⑧・⑨・⑩を参照のこと。

○えほんの国の特徴、特色の説明として、「えほんの国 概要」と、「(福山ネウボラの) 特徴的な取組みは」の⑥を参照のこと。

### ◆ 各施設の活用等

○活用の事例を産前産後に分けて紹介する。

産前の取り組み】男女共同参画センター共催  
《夢みるパパとママの会》ネウボラ相談員とともに妊娠期から見守り、支援する。

①母乳育児とは。

②沐浴の仕方。



③お産のながれについて。

④産後の過ごし方。

産後の取り組み】

①図書館司書による講話。

- ・絵本の読み聞かせのポイント。
- ・年齢にあった絵本の選び方などについて。
- ・親の子育て力の向上。

② 育児相談

- ・発達発育・入所(園)について。
- ・食事(栄養)などに関する育児相談。

③子育て情報の提供

- ・保育所(園)・こども園・幼稚園等の入所案内や子育て支援情報。
- ・福山市母子保健サービス(乳児健康相談・離乳食講習会。)
- ・子どもの発達相談に関する情報。



◆ 市民の声 (評価・要望)

- ・概ね好評を博す。エアコン付き、全天候型で助かる。
- ・施設がまちなかであり、駐車場代が高むのは難点。
- ・買い物ついででよりやすいので父親の育児参加時間拡大のきっかけに。

◆ 現在の課題、今後の展開等

○施設としての課題は駐車場、維持費、移転の問題。事業としての課題、今後の展開は「(福山ネウボラの) 課題と今後の方向性」を参照のこと。

【その他質疑応答 (うち主なもの)】

質 問	答
ネウボラは切れ目の無い支援と言うことですが、多子家庭に対しては？	福山市は未就学児が多いようだ。ネウボラは兄弟姉妹、家庭単位で考えるようにしている。
プレイルームの小学生の利用は？	兄弟での利用であれば可能である。小学生のみの利用はない。
連続講座の受講率向上の方策は？	ママの自発に任せ、受講は促さない。気軽に立ち寄る場所である事が大切。
ファミサポの協力会員数を増やす方法は？	地域を回って制度を周知。
切れ目の無い支援のために工夫は？	担当制で行う。担当者が外れる場合はネウボラシートで情報共有。
ネウボラで管理する情報はどのようなものか？	妊娠期から子育て期での気軽な相談を心掛けている。重度のものは専門機関につなぐ。
ハローワークとの連携は？	近くにあるため連携出来ている。

面談を促す方法は。	妊娠後期一回のみであるが5,000円相当の絵本・おもちゃをプレゼントする。
子育てしたいと答えた方、割合が上昇した理由は？	ネウボラの認知度が上がったことと考える。3人目が他市より多いが、まずは1人目をと考える。
ネウボラの認知度が上がった理由は？	ネウボラが市民に受け入れられていることだと考えるが、アプリをいれた市民にプッシュ型の情報提供をしていることも理由か。
発達支援について特徴は？	発達支援においてすぐに障がいとせず、言葉の支援室を挟む。
外国人への支援について行っている事は？	ベトナム籍の方が多い。ボランティア通訳同行あり。
父親の育児休暇取得率を上げるためには？	努力義務化することも必要。ワークライフバランスについて考える機会を作る。
ネウボラ相談員の資格は？	資格ではないが、初回2ヶ月間の研修。県の合同研修に参加する。

#### 【所感・岡崎市への提言】

○所感 ・現状の岡崎市の支援体制では、乳児期、幼児期、学童期とそれぞれに公民ともに支援側がかわるため、こどもの成長ステップに合わせて新たな支援者とのつながり直しが必要。

幼児期、学童期と進むほどに共働き率も増え、親自身の復職、再就職による生活の煩雑さから、こどもの支援について新たなつながりをつくるのは特段の労力がある。ネウボラはこの課題解決につながる。  
・産前から子どもと家庭を知る専門スタッフによるケア、サポートが学齢期まで続くことは女性活躍の面から見ても有効。福山ネウボラは就労相談コーナーも備え、乳幼児を連れていても就労相談がしやすい環境を整えている。

・産前の働く女性に支援とつながってもらうためにはさまざまな入口が必要。福山ネウボラのように、テーマを小分けし開催回数を増やすことで、より多くの家庭が支援につながるができる。

・産後の親の悩みはさまざま、ネットや本には情報があふれているが、だからこそ対面での接点が必要。母親の顔色、話し方、雰囲気など、メールなどの文章相談ではわからない困り度がみえてくる。商業施設で、えほんとおもちゃがいっぱいある環境は、少し悩んではいるけれどまって子育て支援コーナーを訪れるほどではない、ついではならという方が訪れやすく、母親の精神状態が落ち切る前に掬い上げることにつながる。窓口は「浅く広く」が理想。

○提言 ・学齢期までの継続支援体制の確立。

- ・産前パパママ講座の拡充。
- ・男女共同参画との連携による妊娠前からの働きかけ。
- ・民間子育て支援団体との協働。
- ・商業施設内等、敷居の低い場所での子育て支援コーナーの設置。
- ・パパと支援者との接点を増やすために休日支援センターのスタッフ配置。

(ご協力 高松市 福山市)